

民 法

平成23年2月20日（日） 9：00～12：30

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚（各問について1枚）、下書き用紙は2枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答用紙は、**第1問**と**第2問**とで異なります。それぞれ正しい用紙に解答して下さい。
5. 解答は横書きにして、各問につき1枚の解答用紙（裏面使用も可）に収めて下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
6. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
7. 問題の内容に関する質問には応じません。
8. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
9. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

〔第1問〕 以下の事案について、問いに答えなさい。（配点：75点）

- 1 AはBとは長年の親友であった。AはBからのたつての頼みでBに対して平成20年11月1日弁済期を平成21年10月30日と定め金1000万円を貸し渡した。同時に、BはAの債権を担保するため、B所有の居住不動産（以下「本件不動産」という。）を譲渡担保に供し、所有権移転登記を経た。
- 2 しかし、Bが弁済期に返済ができなかったことから、AとBとの関係は険悪になった。それで、Aは本件土地を処分しようと考え、親戚のCに譲り受けてくれないかと話をしていた。そのことを知ったBは何とか返済しようと金策に走り廻っていた。
- 3 そして、Bは漸く金策の目途がついたので、Aに本件貸金は数日で返済できるとの連絡をした。しかし、AはBとの関係は険悪になっていたことから、このような事情を知っていたCに本件土地を贈与し、所有権移転登記を経た。
- 4 その後、BはAに弁済を申し出たが拒否されたので、法務局に弁済供託した。

CはBに対して、本件不動産の明け渡し請求ができるか。なお、本問では、本件不動産の評価額を明らかにしていないので、留置権については考えなくてよい。

〔第2問〕 以下の事案について、問いに答えなさい。（配点：75点）

大手広告代理店Yでは、残業に関して自己申告制をとっていたが、長時間深夜勤務が常態であり、深夜残業を申告しない傾向が強く、Yはこの状況を認識していた。新入社員A女（大卒・22歳）は、4月に入社し、業務を所定の期限までに完了させるべきものとする上司Bの業務上の指揮・命令の下、6月からセールス・イベント等の企画立案などの多様多忙な業務や雑用を精力的にこなしていた。A女の健康状態は、過重な業務による翌朝・徹夜に及ぶ慢性的な長時間労働と、それに基づく睡眠不足による疲労によって、次第に悪化していき、入社1年4ヶ月頃には心身共に疲労困憊の状態となり、それが誘因となって遅くともその1ヶ月後頃にはうつ病に罹患した。

他方、A女の勤務に対する上司Bの評価は好意的かつ良好であったが、A女の勤務ぶりや異変を了知し充分睡眠をとるよう指導したものの、人員を補充するなどのA女の業務の軽減や健康を配慮した具体的な措置を講ずることはなかった。入社1年5ヶ月後頃、A女の両親XらがA女の過労を心配していたさなか、A女は、勤務中に上司Bも気づく異常な言動を示しながらも無事イベントを終了し帰宅したが、うつ病によるうつ状態が更に深まり、翌朝、自宅で自殺した。

そこで、A女の両親Xらは、YやBに対して、損害賠償責任を追及したい。Xらの主張の可否について、検討しなさい。その際、Yらは、A女の負けん気が強くまじめで責任感の強い完璧主義的な性格が損害の発生・拡大に寄与したと反論する。このような事情は、Xらの請求にどのような影響を及ぼすか否かも併せて検討し、最終的な結論を述べなさい。